

# ITを使った生産性向上の 可能性について

新潟県障害者リハビリテーションセンター  
生活支援員 佐竹 雅芳

# IT（アイティー）ってなんだろう

IT(読み)アイ ティー

ASCII.jpデジタル用語辞典の解説

IT(Information Technology)

「情報技術」のことで、コンピューターやデータ通信に関する技術の総称。その言葉の意味は広く、情報通信分野の基礎技術から応用技術の範囲にまで及ぶ。具体的には、コンピューターやインターネットを中心とするネットワークを活用し、会社の業務や生活に役立てるための技術を指すことが多い。現在は、「ICT」という用語が使われることも多い。

出典 ASCII.jpデジタル用語辞典ASCII.jpデジタル用語辞典について

# 生産性の向上とは

アウトプット（得られた成果）

生産性とは、

インプット（人・物・金・時間等）

と表します。上記から、生産性を向上させるとは、インプットを減らしてアウトプットを増やせば良いことになります。

次からは、ITの活用例をみてみましょう。

# 身近なところから始めるIT活用編

みなさん、他人の記録を読んだりしている時に、わからない単語などがあったりしませんか。そんな時はどうされますか？

きっとITを活用されているのではないのでしょうか。

[すべて](#)[動画](#)[画像](#)[ニュース](#)[ショッピング](#)[もっと見る](#)[設定](#)[ツール](#)

約 12,400,000 件 (0.23 秒)

### 本態性振戦とパーキンソン病 - 大日本住友製薬

<https://kanja.ds-pharma.jp/health/furue/kiso03.html> ▼

本態性振戦はふるえのみを症状とする病気ですが、パーキンソン病にはふるえ以外にもいろいろな症状があります。本態性振戦、パーキンソン病それぞれの発病年齢、症状、ふるえの特徴などについて解説します。



### 本態性振戦の特徴 | 本態性振戦とは | 気になる「ふるえ ... - 大日本住友...

<https://kanja.ds-pharma.jp/health/furue/hontai02.html> ▼

本態性振戦のふるえは、精神的緊張が強くなることが知られています。例えば結婚式などで記帳するときに、字をうまく書かなければという緊張から、ふるえの症状が強くなるというケースがあります。このほかにも本態性振戦の疑いがある症状をあげてみました。

### ふるえの原因 | ふるえとは | 気になる「ふるえ」～本態性振戦って知っ...

<https://kanja.ds-pharma.jp/health/furue/kiso02.html> ▼

ふるえには生理的なもののほかに、いろいろな病気によって引き起こされるものがあります。代表的なもの、本態性振戦、パーキンソン病、甲状腺機能亢進症、アルコール依存症などです。

### 振戦 - 09. 脳、脊髄、末梢神経の病気 - MSDマニュアル家庭版

<https://www.msmanuals.com> > 家庭版 > 09. 脳、脊髄、末梢神経の病気 > 運動障害 ▼

振戦 - 原因、症状、診断、および治療については、MSDマニュアル-家庭版のこちらをご覧ください。

### 振戦 - Wikipedia

<https://ja.wikipedia.org/wiki/振戦> ▼

振戦（しんせん、震顫、振顫。英:Tremor）とは筋肉の収縮、弛緩が繰り返された場合に起こる不随意のリズミカル運動である。振戦はだれしも起こりうる症状でストレス、不安、疲労、アルコールの離脱症状（禁断症状）、甲状腺機能亢進症（甲状腺の働きが過剰に ...

### 意図振戦 - Wikipedia

<https://ja.wikipedia.org/wiki/意図振戦> ▼

意図振戦（いとしんせん、英:intention tremor）とは小脳損傷時にしばしば認められる失調症状の1つで、企図振戦とも呼ばれる。安静時にはほとんど生じないが、運動時、特に運動終了直前に生じる律動的な運動障害である。頭部や体軸側の抗重力筋において

# 身近なところから始めるIT活用編

GoogleやBing等のインターネット検索技術もネットワークを活用し、会社の業務や生活に役に立っている技術ですから立派なITといえます。



# IT活用少予算編

**WEB会議システム**（Skype・Googleハングアウト・appear.in等）  
必要なもの：PC・WEBカメラ・マイク

少人数の会議ならば、集まらずにネットワーク越しで行うことができます。当法人ならば各法人委員会の集まりに活用できるかもしれません（車での移動が不要）。

# IT活用大規模編

まずは、会社業務の中での勤怠管理及び給与計算をベースにIT活用による生産性向上例をあげてみたいと思います。

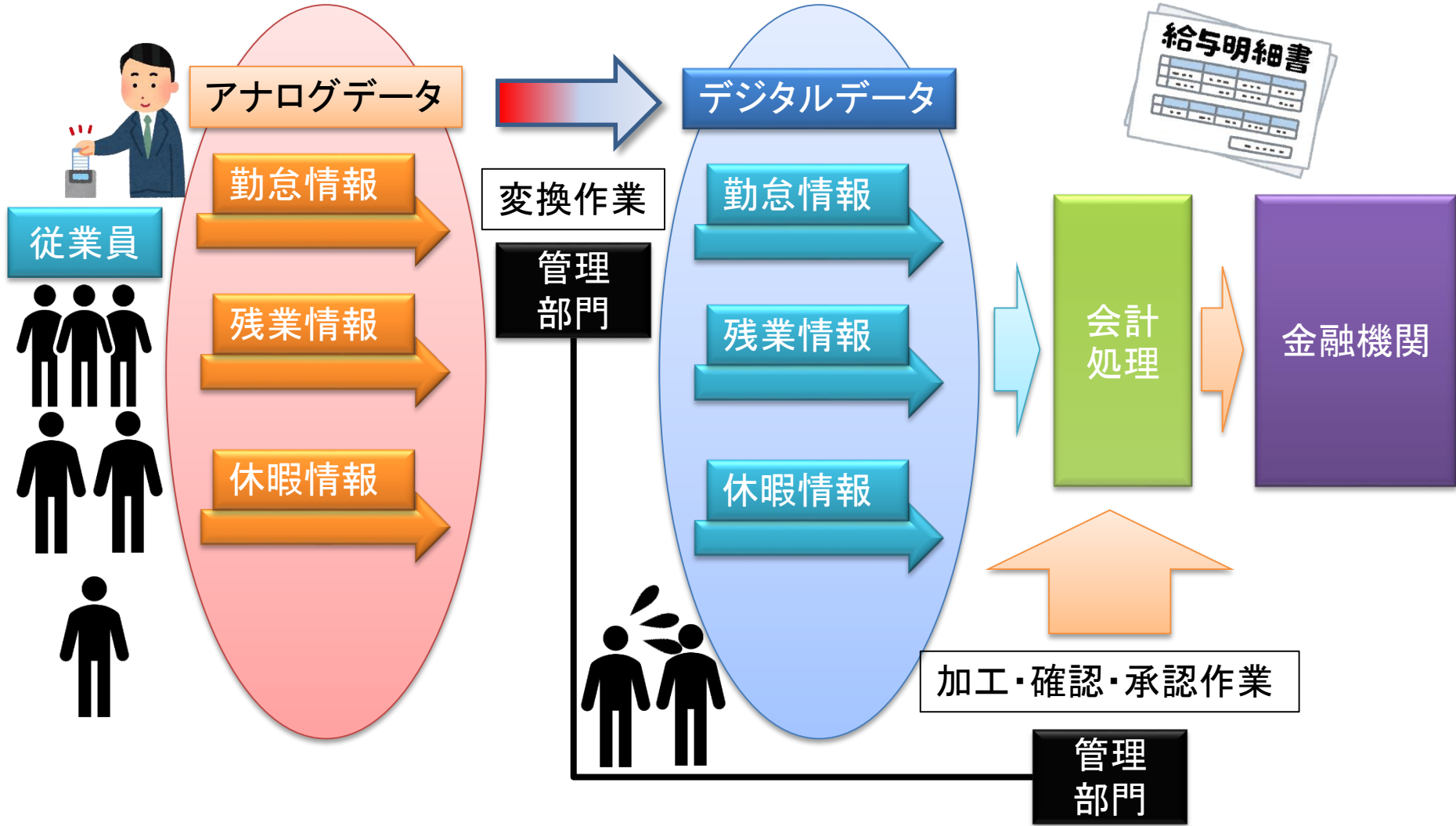




# 勤怠管理等を書類で管理している場合

3:00

※イメージです

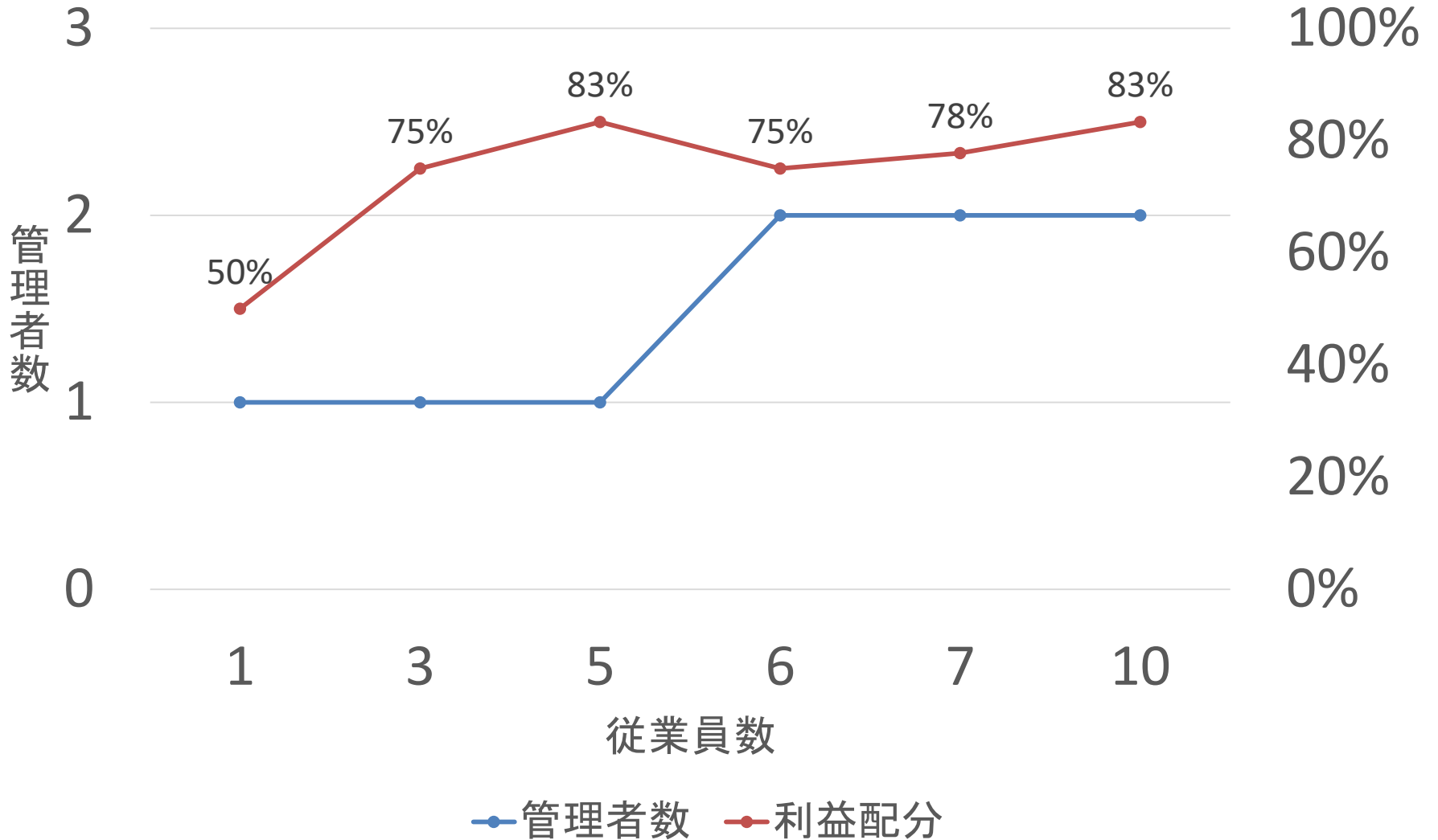


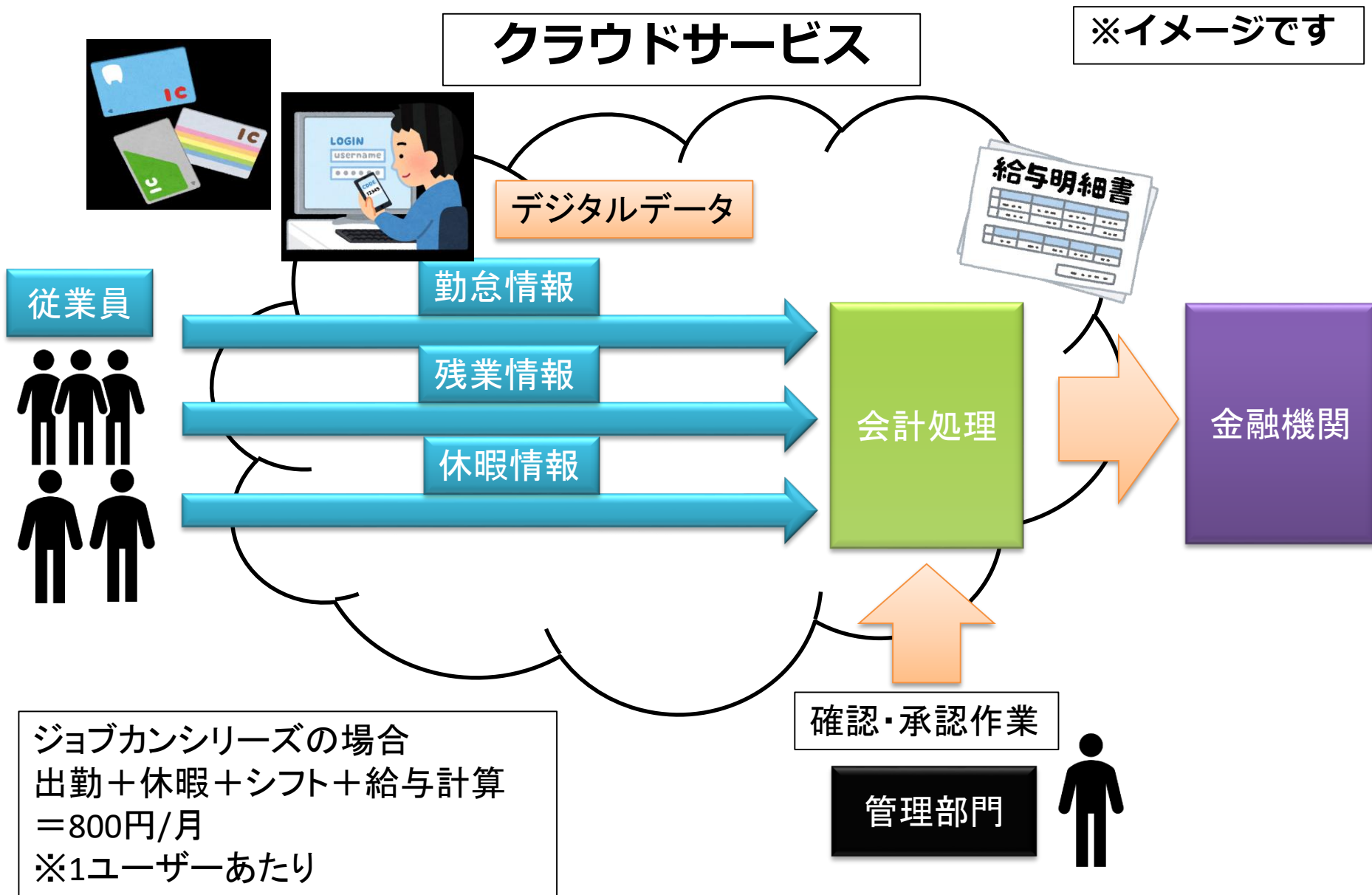
# IT活用大規模編（IT活用前解説）

書類で管理していた場合ですが、従業員が増えると、管理部門のキャパを超えるときがきます。そうすると、管理部門を増やさないと納期内（締めから給料日まで）に終わることが出来なくなってしまう。

このサイクルは従業員が増えるたびに一定の割合で管理部門を増やしていかないと業務が破綻することを指しています。

### 従業員と管理者数と利益の相関関係





# IT活用大規模編（IT活用後解説）

IT活用後の場合です。この場合、クラウドサービス部分の処理時間は人数が多少増えても変わりません。そして、人間よりも正確です。また、他の利点として人数の増減に対しても柔軟に対応できるところも大きいと思います。

# IT活用大規模編（メリット編）

クラウドサービスには以下のようなメリットがあげられます。

- 初期費用が安い。ネットとパソコンがあれば利用できます。
- 機能を無料で試せるところが多い（1ヶ月無料体験できるところが多かった）。
- 進化が早い（ものがある）。
- 連携機能が多い。

# IT活用大規模編（デメリット編）

クラウドサービスには、以下のデメリットもあります。

- ネットワークがないと使えない。そのため停電時やネット障害の時はどうするかを対策しておく必要がある。
- サービスが終了したときになにも残らない可能性がある。バックアップ方法は要検討項目。
- サービス側で情報漏えいがあるかもしれない。
- 突然サービスが終了するかもしれない。サービス提供会社はよく考える必要あり。
- 初期導入時の設定・社員教育が大変な場合がある。

# まとめ

- ITを活用して生産性を向上することは可能だと思えます。例えば、型にはまった処理の速さや正確性は人間が追いつくには難しいものがあります。しかし、費用対効果をよく見極める必要があります（初期設定や社員教育なども目に見えにくい手間と言えます）。
- ITツールを導入した場合は、**セキュリティの意識を高く持たなければなりません**。例えば、管理者のID・パスワードの漏洩は、データの漏洩・改ざんに繋がりがかねません。
- IT導入はメリット・デメリット・リスク等総合的に判断する必要がありますが、日本では長期的にみると労働人口の減少は避けられません。先を見据えてITを活用し、生産性のインプット部分の省力化を目指すのは必然になるのかもしれない。